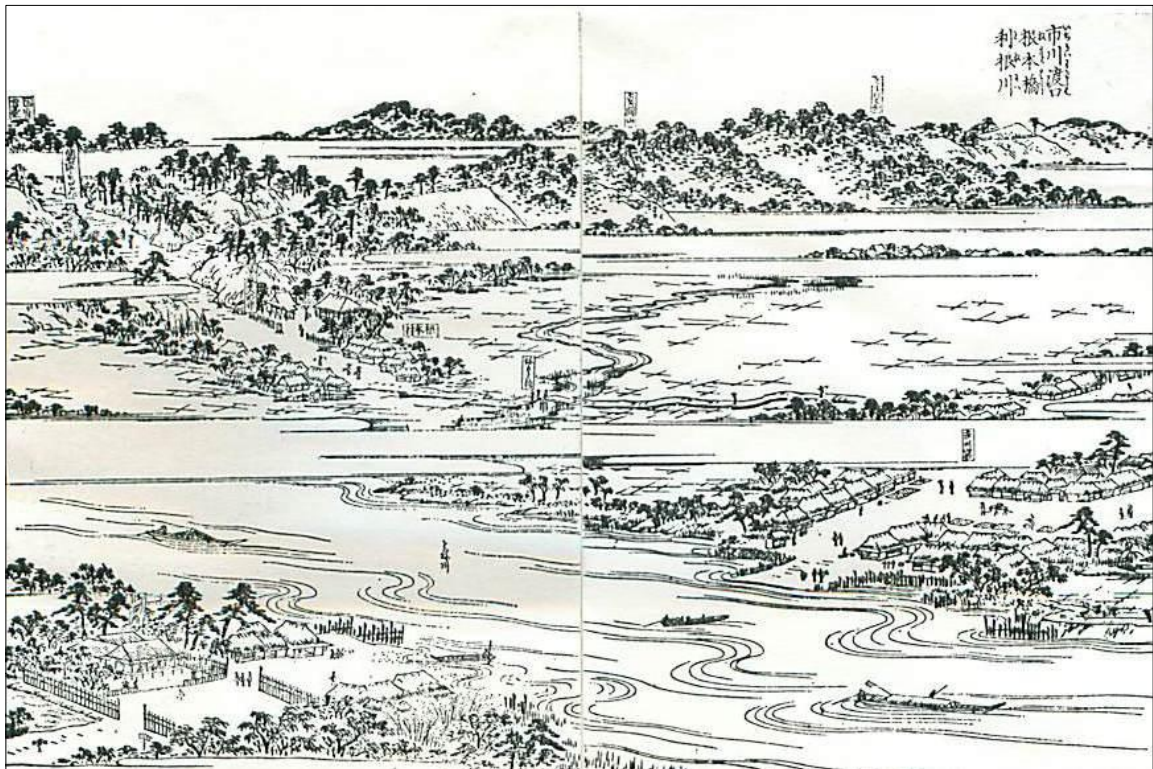


こ い わ い ち か わ せ き し ょ
小 岩 市 川 関 所

小岩市川の渡しと関所

房総と江戸をむすぶ佐倉道さくらみちが江戸川を渡るこの「渡し」は、古くから交通の要衝ようしゅうでした。連歌師柴屋軒宗長さいおくけんそうちようの紀行文『東路のつと』あずまじ（永正6年）えいしやうにも、この渡しを渡って善養寺ぜんやうじへ向かう記述があります。江戸時代には元和2年（1616）に定船場じやうせんばとなり、番所ばんじょがおかれ、いわゆる「入鉄砲いりてっぽうに出女でおんな」という言葉があるように、江戸を往来する人や物資を厳しく監視しました。番所はのちに「関所せきしよ」となりました。関所付近の街道筋は「御番所町ごばんしよまち」とよばれ、旅籠屋はたごやや掛茶屋かけちややが立ち並び、大名の参勤交代や成田詣での人々でにぎわいました。

関所を通るには、名主の発行した手形てがたまたは切手と呼ばれる通行証明書が必要で、特に鉄砲の持ち込みと女性の地方への旅は厳重に取り締まられました。そ



左下が小岩市川関所（『江戸名所図会』より）

のため、千葉県側から嫁に来た場合は、里帰りや祝儀・葬儀、実家に帰る場合にも手形を必要とし、奉公人としてやとわれてきたときには年季が明けるまで帰ることはできませんでした。

小岩市川の関所は、現在の京成電車鉄橋から約50m下流にあったとされています。

御番所町跡

御番所町とは関所前かいわいの界隈のことをいいました。現在は京成江戸川駅から南、蔵前橋通りに至る道路部分が「御番所町跡」として区の史跡になっています。

ここは旧伊予田村いよだに属し、佐倉道と元佐倉道の合流するところで、南北に走る岩槻道にも接する交通の要衝でした。「小岩市川の渡し」が定船場となり、御番所(関所)が置かれたこともあって「御番所町」と称されたと思われます。

江戸時代後期の地誌『新編武蔵風土記稿』しんべんむさしふどきこうの「伊予田村」の項にも、関所は「新町内江戸川の傍らしんまちにあり、ここを御番所町とも云」と書かれています。また、『徳川実記』とくがわじつき(延宝2年)に記されている佐倉道(元佐倉道)の小岩の駅(宿場)にあたるものではないかと思われます。

関所の近くには、角屋旅館のほか、筑前屋、清水屋などの旅籠屋を兼ねた小料理屋をはじめ、井熊鮓、あめ屋、豆腐屋、ぬか屋、掛茶屋などが並んでいたと伝えられています。

江戸川につきあたる付近が関所跡であり、関所から来ると正面左に大きな道標どうひょうが望めました。道標は「慈恩寺道石造道標」じおんじみちで、今も原位置にあります。

その他にも、江戸川の川岸にあった常燈明(宝林寺)や小岩市川関所の役人であった中根平左衛門代々の合葬墓なかねへいざえもん がっそうぼ(本蔵寺)など、周辺には当時にゆかりのある旧跡が残っています。



常燈明(宝林寺)

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)